1973年夏季大成町における急性下痢症患者からの腸内ウイルスの分離（予報）

Isolation of Enterovirus from the Patients of Acute Diarrheal Outbreak in Taisei-cho in the Summer, 1973 (Preliminary report)

奥原　広治　　佐藤七七朗　　野呂　新一　　桜田　教夫

Hiroji Okuhara, Nanao Sato, Shinichi Noro and Norio Sakurada

1973年８月15日，今金保健所から久遠郡大成町地区および瀬棚郡瀬棚町地区に原因不明の下痢症の発生があり，急激に増加しているという連絡があった。

調査の結果，大成町地区では初発が６月上旬に始まり，１日１－５名程度の散発が７月中旬までみられ，その後８月上旬頃まで１日10名前後の発生があり，８月中旬になって１日20—80名と急激に増加してきた。

罹患者は，大成町地区では，９月上旬終末までに約500名以上に達した。

一方，８月初旬に，瀬棚町地区にも同様の下痢患者の発生がみられ，下旬には１日20名前後の発生があって，終末までに約100名以上の患者が出た。

これらの患者の症状は，1969年[1]および1970年にみられた急性下痢症と略同様の症状を呈し，夏かぜ様の前駆症に始まり，発熱，くしゃみ，悪寒続いて嘔気，嘔吐，腹痛下痢症状がみられ，水様状の下痢便が１日８—10回くらいにおよんだ。治療後は１－３日くらいで回復に向い，比較的軽症であった。

罹患者の年令は，５才—70才にわたっているが，青壮年令層に患者の多かったので特徴的であった。

現地の保健所において，赤痢菌，腸チフス菌，サルモネラ菌，ブドウ球菌，および腸炎ビブリオについて検査を行なったが，全て陰性であった。

1969年[1]に，今回と略同様の急性下痢症の流行があり，それらの患者から腸内ウイルスが検出されたことから，今回も，８月15日から19日の間に，大成町郡，富磯および本陣地区の患者から採取した一部の糞便についてウイルス学的検索を行なったところ，６例の糞便からCoxsackie A２型ウイルスが分離された。

また，表１のように，９例の患者血清について分離ウイルスに対する中和抗体価を調べたところ，４例（44.4%）に有意の抗体価上昇が認められ，３例には128倍以上，２例には32倍以上のすでに高い中和抗体価の保有が認められ上述の患者は，Coxsackie A２型ウイルス感染による急性下痢症と推定された。

表１　ウイルス分離と血清中和抗体価成績

患　者	年令	性別	ウイルス	Cox-A 2型中和抗体価
石○良○	14	♀	A２※	64×256×
石○伸○	13	♂		＜4 ×32×
沖○俊○	14	♂	A２	32×32×
太○高○	43	♀	A２	256×512×
太○マ○	34	♀	A２	128×128×
長○君○	32	♀		32×64×
吉○キ○	54	♀		256×256×
石○千○	39	♀	A２	16×64×
岩○洋○	35	♀		64×512×
中○正○	52	♂	A２	

※ Coxsackie A群２型

稿を終えるに臨み，調査および材料の蒐集に協力下さった北海道衛生部保健予防課ならびに今金保健所の各位に深謝する。

1）奥原広治他：臨床小児医学，**20**，176 (1972)